

# 草の実

第61号——2017年1月号

札幌市豊平区平岸4条17丁目6-6  
電話 011-817-9080/FAX 011-817-9899  
Eメール kusanomi@bb.wakwak.com  
ホームページ <http://park19.wakwak.com/~kusanomi/>  
ブログ <http://ameblo.jp/kusanomikai/>  
工房もくHP <http://www.kouboumoku.com/>

## 新年、明けましておめでとございます。 そして 津久井やまゆり園事件について

昨年さくねんの夏なつ、信じられない事件じけんが起こった。  
山里やまざとの施設しせつで深夜しんや、ぐっすり寝ている人が次々と刺し殺されるという惨劇さんげき。19人が死亡し、負傷者は27人に。その施設の全員を殺すために侵入し凶器を振るった。

今まで経験したことの無いショックを受けた。  
大勢おおぜいの無抵抗の障がい者が殺されたことに。  
障害者は生きていない価値がない、という考えだったことに。  
犯人がその施設の元職員だったことに。

起こるはずがなく、想像するはずのないことが起こった。  
この事件の直後、障害者団体等が怒りの声明を出した。亡くなった人々への哀悼の意を表した。再発防止を誓った。

私たち草の実会は発言を控えてきた。事件の実態が見えないこと、それよりも何をどう整理していったらいいのか見えなかったから。

事件から5ヶ月が経った。再発防止対策本部や第三者委員会などが、検討・検証の結果を報告している。警戒態勢に不備が、措置入院解除後のフォローが無かった、情報共有が不十分だった、などなど。防犯対策と措置入院制度を強化することが再発防止であるとは考えていない。

とても違和感がある。今回の事件の核心はそこにはない。犠牲になった人たちの姿が見えてこない。障がい当事者が何を感ず何を考えているのか誰も取材・報道しない。どうして9人の職員は何もしなかったのか。睡眠剤で眠らされる利用者の人権は守られていたのか。そもそも大勢を集めた『収容施設』だから起こった事件ではないのか。障がい者を支援すべき施設で障害者の存在を否定する考えがどうして生まれたのか、そしてどうして公然と予告して実行できたのか。

事件の直後、犯人の行動を容認する意見がネット上にあふれ、この国の未熟さとおぞましさをまた露わにした。「福祉」の美名とは裏腹に障がい者をはじめ自分とは違う人を区別し、差別し、排除し、殺してしまう社会であることがまた明らかになった。

そしてその構造は福祉の中にも間違いなくあることも明らかになった。未だに続く虐待、差別、守られない人権、…。社会にある障がい者に対する偏見と差別、あるいは憐れみと同情。これらと闘い、誰もが対等であり自分の人生を自分で生きる権利があること、そんな社会を実現していくこと抜きに福祉があり得ないことも明らかにした。そこに行かずには、プライバシーを理由に名前の公表をためらう家族の心情を解消することも出来ない。

昨年11月に東京で『津久井やまゆり園事件を考える全国集会』があった。草の実会も呼びかけ人に加わり参加した。全国の大勢の方と意見を交わした。だれもが安心して生きていける社会の実現に向かいたい。この2月には大阪で集会がある。

理念を語るだけでなくその実現のための一歩を踏み出す！

2017年が明けました！ みなさま、よろしくお願ひします！  
統括責任者 手塚 玄

11月26日、『津久井やまゆり園事件を考える全国集会』会場にて

